

益田市過疎地域持続的発展計画（案）パブリックコメント実施結果について

○公募期間 令和8年2月10日～3月1日まで

○提出者数 2名（持参1名、メール1名）

「益田市過疎地域持続的発展計画（案）」に対するパブリックコメントを実施した結果、次のようなご意見をいただきました。貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございました。いただいたご意見に対する市の考え方は次のとおりです。

No.	ご意見の内容（原文）	ご意見の概要	市としての考え方	修正の有無
1	1)現在では、国も含めて主流になりつつある計画では、計画の見える化や重点化され、効果を明確にした具体的な実現を意識した計画になっているのですが、見える化、効果を明確にした計画にしてもらいたい。人口の大幅な減少も予測され限界自治体に近づきつつある益田が、手遅れになる前に改善していかないといけないという危機感を持って進めてもらいたい。多くの計画項目で具体化されていないものが多々見られ、是非有識者や市民も含めた委員会などを作って各項目の実現施策を進めてもらいたい。計画における益田市の試算では5年後の人口が約40000人とありますが、人口が40000に近づくと経済的には商売の採算が合うぎりぎりの経済圏となるため、いろいろところで採算が合わなくなって、店がどんどん閉店になり、病院がなくなり、学校がなくなり、行政サービスが低下し、そして加速的に人口が減ることが考えられます。そして気が付けば、高齢者だけになる限界自治体一步手前の35000人まで減少して、手遅れになることが想定できるので、そうならないため、勝負のこの5年間、施策をうまく具体化・重点化して進めてもらいたい。	計画の具体化と重点化を要望。人口減少への危機感を持ち、総花的ではなく効果の見える施策を実行し、市民に分かりやすく示してほしい。	本計画は、「過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法」による、過疎対策事業債等の財政的支援を活用するための基本的方針等を定めることとしております。 過疎対策事業債等を活用しないものも含めた全体的な各施策については、「第6次益田市総合振興計画後期基本計画（案）」において、課題、取組方針、具体施策を網羅的に記載し取り組んでいくものとしております。	無
2	2)手を打つなら今。 高市政権による地方強化の施策や地方交付金の増額も期待される今こそ最後のチャンスと考え、魅力ある施策、効果が見える形の施策を重点的に提示し、実行してもらいたい。	国の動向や交付金を活用し、今こそ魅力ある施策を重点的に実行すべき。この5年間をラストチャンスと捉え、スピード感を持って取り組んでほしい。		

No.	ご意見の内容（原文）	ご意見の概要	市としての考え方	修正の有無
3	<p>3) U・Iターン支援の強化の実施</p> <p>現在U・Iターン対策は一応取られているようであるが、3年前まで関東にずっといた益田出身者の私ですらまったく益田のU・Iターンの活動は知りませんでした。せめて外に出た益田出身者には、声をかけるとか、盆正月などの帰省時に案内を配布する必要があるのではないかと思います。</p> <p>またU・Iターン支援の具体的な対応として、例えば、仲介制度の充実や、U・Iターンの人が農業や狩猟をやりたい場合の指導者の育成や、サポーター隊の設置など、U・Iターンの人が必要な具体的な政策を実施してもらいたい。その場合、益田にいる高齢者の知識経験を活かした形にすることで、地元の高齢者の生きがいにもつながっていくと思われ、WinWinの施策にもなると思われ。また、Uターンの可能性のある地元出身者に対して調査を行い、どのような施策・対応をすれば戻りたくなるか等の調査をして、対象者の立場で施策を作るようにしてもらいたい。最近、若い都会にいた若者が、益田に戻る、あるいは移住する人が増えてきていて、彼らを支援する助成の充実を進めるとともに、彼らからどうしたら戻ってきたくなくなるようになるかのヒントをもらうようにしたらいいと思う。彼らの力は期待できる。</p>	<p>出身者へのアプローチや高齢者の知恵活用など、U・Iターン支援を強化してほしい。また、若者へのヒアリングを行い、その声を施策に反映させる仕組みを作してほしい。</p>	<p>U・Iターン者へのサポート・支援については、市の最上位計画である「第6次益田市総合振興計画後期基本計画（案）」をはじめ、「益田市中心間地域振興基本計画」でも取組を進める旨示しているところであり、こういった計画に基づきながら実施いたしますが、ご指摘をいただいたことなども参考にしながら、進めてまいりたいと考えております。</p>	無
4	<p>4)体験ツアー</p> <p>計画にある体験ツアーはいいので、その旅費の支援をして、都会の子供や大人が来て、住みたくなくなるような経験をしてもらう施策を強化していただきたい。</p>	<p>移住定住につなげるため、体験ツアーの旅費支援など、来訪者が住みたくなくなるような施策を強化し、関係人口から定住人口への移行を促進してほしい。</p>	<p>市では、「第6次益田市総合振興計画後期基本計画（案）」の具体施策の一つとして「国内交流・国際交流の推進」を掲げており、姉妹都市である大阪府高槻市及び友好都市である神奈川県川崎市などと連携し、定期的に児童の交流や、文化・スポーツを通じた交流を行っているところではありますが、この他にも広く益田暮らしに関心を持っていただくよう体験ツアーなどにも取り組むこととしております。引き続き、移住希望者等に対して本市の魅力を感じていただけるよう進めてまいりたいと考えております。</p>	無
5	<p>5)農地集積・集約化や経営の安定化・合理化を支援するほか、特産品のブランドの強化、販路拡大の支援を行うと記載はあるが、現在益田は高齢者ばかりで放棄農地も多くなっている農業の現状を考えると、この農地集積・集約化や経営の安定化・合理化は特に重点課題と思われる。これに対する施策を具体的に進めてもらいたい。例えば、農業地を集約して企業化に対する助成や、小規模農家を集めてグループにして効率化（農機具の共同使用、共同購入による値下げ、集団での売値交渉とか）していくことに関する支援・助成を行うなどを、考えてもらいたい。</p>	<p>高齢化や耕作放棄地増加に対応し、農地の集約化・企業化や共同化への助成など、農業経営支援を強化し、持続可能な農業体制を構築してほしい。</p>	<p>農業従事者の減少に対応し、持続可能な農業を実現するため、「第6次益田市総合振興計画後期基本計画（案）」に基づき、担い手への農地集積・集約化を推進するとともに、スマート農業技術の導入を支援します。また、個別の経営支援に加え、集落営農組織の法人化や広域化、機械・施設の共同利用への助成を行うことで、経営基盤の強化と省力化を図り、安定的な農業経営体の育成に努めます。</p>	無

No.	ご意見の内容（原文）	ご意見の概要	市としての考え方	修正の有無
6	6)益田の優位性として山海川がそろっていて、その産物が豊富に取れることである。これを活かしたブランド化、アピールを進めてもらいたい。例えば、益田の地元野菜、魚、肉などの販売の促進における何が問題でブランド化していくにはどうしたらいいかの調査や有識者を交えた検討会などを作って、具体化していく。また、地元産を活用した店を市として推薦したり、グルメ開発を支援したりすることも施策として、計画に記載して取り組んでもらいたい。	山海川の豊富な資源を活かした特産品のブランド化や、地元食材を活用したグルメ開発・店舗支援を推進し、食を観光の目玉にしてほしい。	「第6次益田市総合振興計画後期基本計画（案）」において、「食」は本市の主要な観光資源の一つと位置付けています。高津川のアユやワサビ、日本海の家産物など、地域資源の特性を活かしたブランドの付加価値向上に取り組めます。益田版DMO「ますだプライドクリエーション」や商工会議所と連携し、新商品開発や販路開拓への支援を行うとともに、歴史文化と食を組み合わせた観光を推進し、食を通じた誘客を図ります。	無
7	7)これから独り暮らしの高齢者がますます増えていく中、独り暮らしの高齢者の買い物は、健康維持にとって役立つもので、グループでのショッピングやライドシェアによる買物の利便性の向上などに取り組んでもらいたい。	独居高齢者の増加を見据え、グループでの買い物やライドシェアなど、買い物支援と利便性向上策を実施し、生活基盤を守ってほしい。	高齢化に伴う買い物困難者の増加に対応するため、「第6次益田市総合振興計画後期基本計画（案）」に基づき、地域の実情に応じた支援策を講じます。具体的には、民間事業者による移動販売・宅配事業への支援に加え、路線バスや自家用有償旅客運送、乗合タクシー又は地域自治組織等の地域住民が実施する無償輸送等を活用するなど、地域の特性に応じた最適な手段を組み合わせ、持続可能な買い物支援体制の構築を支援してまいります。	無
8	8)観光強化 益田を訪れる観光客が約30万人と推計されているが、実際、雪舟の庭や人麻呂神社、中世の益田の史跡に観光客がほとんどを問わず閑散としていて、その数値と実態があっておらず、市民の誰もがその数値を疑問に思っている。その推計根拠を市民に示してもらいたい。益田には観光資源はあるはずで、空港マラソン、いなかりライドなどのサイクリング、柴犬の発祥地（ふる里）、雪舟・人麻呂ゆかりの地、匹見のワサビ、古墳、高津川清流、日本海の夕日・自然、山陰のモンサンミッシェル衣毘須神社・人情峠、唐音水仙公園、七尾山城、美肌温泉、グラントワ、石見神楽など、数えきれないほどあるはずで、後はそれをうまくアピールしてきてもらえるかである。旅行会社とのタイアップや、若者等からアイデアを募る等して、どうしたら客がしてもらえるかを考えてもらいたい。また、益田の観光だけという狭い考えはやめて、益田周辺の観光も益田の観光資源と考え、周辺の観光地とタイアップした周遊観光のプロジェクトを立ち上げて実施してもらいたい。	観光客数の推計根拠を明示し、近隣地域と連携した周遊観光プロジェクトの実施や若者のアイデア活用を行い、実効性のある観光振興を進めてほしい。	観光客数については、島根県観光動態調査に基づき、市内の観光施設から報告された数値等を基に集計をしています。ご指摘のとおり、市内にはたくさんの観光資源がありますが、まだまだ活かしきれていない状況があるのも事実です。 このような中、観光客のデータを取得し、そのデータに基づくマーケティングを行い、明確なターゲットの設定と効果的なプロモーション等を行う組織として、観光地域づくり法人（DMO：一般社団法人ますだプライドクリエーション）が昨年設立されました。今後はこの法人がかじ取り役となって官民連携による観光誘客に取組み、「益田市観光振興計画（案）」に基づいて近隣自治体との連携や周遊観光の促進等を含め、観光振興に取り組めます。	無
9	9) 漁業、林業の資源の活用 益田には、漁業や林業の資源が多く存在しているが、それを有効に使われておらず、もったいない。①都会の釣りブームに乗って、海釣り、川釣りのツアーや体験ツアーを計画してはどうか。②狩猟体験ができるツアーを考える。イノシシのおいしい肉なども併せてブランド化していく。こうした体験ツアーを通じて、益田に1ターンの増えることにつながることも考えられる。	釣りや狩猟など、未活用の漁業・林業資源を活かした体験ツアーを企画し、関係人口創出と移住促進につなげてほしい。	本市の自然資源を活用した観光振興については、「益田市観光振興計画（案）」において体験型観光の推進を掲げています。体験プログラムを通じて、来訪者と地域住民との交流を促進し、地域に関わりを持つ「関係人口」の創出を図ることで、将来的な移住・定住につながる循環を生み出すことを目指します。	無

No.	ご意見の内容（原文）	ご意見の概要	市としての考え方	修正の有無
10	<p>10)地元の意識</p> <p>地元の人が誇りに思わない街に、外の人が来たいとは思わない。益田市民が、益田を誇りに思うような益田を知るイベント、益田を大切に思う市民活動への支援、子供たちが益田を誇りに思う学校教育などに取り組んでもらいたい。</p>	<p>市民が地元を誇りに持つようなイベント支援や学校教育を推進し、内側から地域の魅力を高めることで、対外的な発信力も強化すべき。</p>	<p>観光振興や定住促進の基盤として、市民の地域への愛着（シビックプライド）の醸成が重要であると考えます。「第6次益田市総合振興計画後期基本計画（案）」に基づき、市民参加型のイベントや地域資源の再発見事業を支援します。また、教育施策における「ふるさと教育」を推進しています。</p> <p>これらの取組みを通じて、児童生徒が地域の歴史・文化・産業を学ぶ機会を充実させることで、市民一人ひとりが地域の魅力を認識し、発信できる土壌づくりに取り組みます。</p>	無
11	<p>11) 柴犬を活用したアピール</p> <p>柴犬の元祖石号の観光に関しては記載があるが、柴犬は国内外で最も有名な犬種で、多くの愛好者がいる（正式な頭数は不明であるが、犬のペット数約700万頭のうち、柴犬が好きという割合15%で10万人くらいの愛好家はいると推計される）が。現在のペットブームを考えると、これは大きな観光資源であり、日本中の柴犬愛好家に益田に来てもらい、そのついでに益田の各所を観光することで、来訪者の増加が見込まれ。空港利用促進や他の観光地を知ってもらえるいい機会となる。益田市も、このビッグチャンスをもっととらえて、柴犬をベースにした観光誘致、観光案内の強化、イベントの実施等をもっと進めるよう、重点施策として計画に入れて進めていってほしい。</p>	<p>柴犬の聖地としてのポテンシャルを活かし、愛好家誘致やイベント開催など、観光資源としての活用を強化し、独自の魅力をアピールしてほしい。</p>	<p>「益田市観光振興計画（案）」において、石号の生誕地である「柴犬の聖地」は、本市独自の観光資源と認識しています。関連イベントの開催などを通じて、愛好家だけでなく新たな客層の誘致を図り、交流人口の拡大につなげる施策を展開します。</p>	無
12	<p>12)インフラ更新</p> <p>地域における情報化で、インフラの更新を挙げているが、これまで市が整備したインフラ（例えば光ファイバーの全戸設置等）にかけた経費に関して、どの程度使われていて効果がどの程度あったのかをちゃんと評価して市民に提示し、評価を踏まえた上での最近の情報化の進歩に合った形の更新にしてもらいたい。例えば、家の地域放送だけであれば、今のインフラ整備はToo Muchであり、最近の無線技術の進歩を考えれば、無線・有線の併用が効率的である。防災対応の視点で言えば無線のほうが有効で柔軟な対応できる。また、最近では、すべての市民がスマホを持っていると思われるので、スマホ（LINEやメール活用）で情報提供をすることの方が効率的かつ確実に案内できるようになる。無線の5Gシステムがスタンダードになってきている現在では、ラストワンマイルの家庭には無線が有効とされ、スマホを活用した行政情報提供やサービスを強化するほうが効率的となっている。仮に従来どおりのインフラの置き換えをするにしても、その機能を使ったサービス（例えば、遠隔医療などや孤立高齢者の健康確認などのサービス）も合わせて検討してもらいたい。こうした情報化の進歩は早く、予算の使い方も専門家や有識者を入れて再検討すべきと思われる。</p>	<p>既存インフラの費用対効果を検証し、5Gやスマホを活用した効率的で災害に強い情報伝達手段へ転換し、情報格差のない環境を整備してほしい。</p>	<p>「第6次益田市総合振興計画後期基本計画（案）」にて、情報伝達手段の最適化を進めています。緊急防災放送装置については、令和5年10月以降、新規設置を縮小しており、普及率の高いスマートフォンを活用した防災アプリやSNS、安全安心メールなど、多様な媒体を組み合わせた情報伝達基盤を構築します。これにより、世代を問わず、災害時および平時において必要な情報を迅速かつ確実に伝達できる環境を整備します。</p>	無

No.	ご意見の内容（原文）	ご意見の概要	市としての考え方	修正の有無
13	<p>13) 益田市役所のセキュリティ対策</p> <p>昨今の、情報化の急速な進歩や、各公共機関へのセキュリティ攻撃に対して、率先して対応するため、益田市役所の情報化の職員は、持ち回りではなく、専門知識をもってある程度長期に配属して対応させる必要がある。その担当職員には、セキュリティ研修として、私が勤めていた国立研究法人情報通信機構(NICT)のセキュリティ研修（CYDER：自治体や企業に対する研修）などで、知識と技術の向上を図る。CYDERは、各都道府県でも実施しており、2026年度参加して、職員の能力を高め、益田市役所のセキュリティの強化を進めることを進めます。</p>	<p>情報セキュリティ強化のため、専門職員の配置やCYDER等の研修参加により、市役所の対策レベルを向上させ、安全な行政運営を行ってほしい。</p>	<p>行政サービスのデジタル化に伴い、情報セキュリティの確保は重要課題と認識しています。提案のあったCYDER研修については、情報システム課の全職員が初級レベルを受講済みであり、基礎的な対処能力の習得に努めています。総務省のガイドラインに準拠した対策を講じるとともに、継続的な職員の研修を通して、モニタリングやインシデント対応能力を強化します。</p>	無
14	<p>14) 市民へのセキュリティの対応</p> <p>スマホが主流になる中、スマホのセキュリティが確保されないまま、危険な状況になっている。特に過疎地が多く高齢者が多い益田では、独りで抱え込み、被害がさらに大きくなる。セキュリティや詐欺を防止するなど、市民の安全を守るところに予算を使うことも考えてもらいたい。ネットにおける詐欺などのリスクが高まりつつある中、何かあったときの相談窓口などの強化も必要である。</p>	<p>スマホ普及に伴うセキュリティリスクや詐欺被害防止のため、市民への啓発や相談窓口を強化し、誰もが安心してデジタル機器を使える環境を。</p>	<p>市では消費生活における市民の相談窓口として消費生活センターを設置しトラブルの解決を図っています。消費者被害の注意喚起並びに未然防止を図るため、「第6次益田市総合振興計画後期基本計画（案）」に基づき、市民対象の消費者セミナーや市公式ウェブサイトでの消費者被害注意情報の掲載、民間団体等と連携した街頭アピール活動等による意識啓発に努めているところです。</p>	無
15	<p>15) AIの活用</p> <p>AIは避けて通れない状況になっていて、誰でもAIを使う時代になっており、過疎地こそ、AIを活用していくべきである。①AIを使った行政サービスの高齢者の利便性の向上、②独り暮らしの高齢者の寂しさを紛らわせたり生活サポートするAI会話・コミュニケーション端末の利用などを検討してもらいたい。AI活用のプロジェクトチームを作って、検討し案を作って進めるべき。5年を待っていると、今の急速な進歩に遅れてしまう。IT専門学校ができることを切掛けに、益田をAIの先端自治体にしていくくらいの積極的・重点的な取り組みが求められる。</p>	<p>高齢者支援や行政サービスにAIを積極活用し、プロジェクトチームを設置して先端自治体を目指すことで、業務効率化と住民サービス向上を図ってほしい。</p>	<p>生成AI等のデジタル技術については、「第6次益田市総合振興計画後期基本計画（案）」に基づき、活用等による市民の利便性や行政サービスの向上に努めることとしております。</p>	無

No.	ご意見の内容（原文）	ご意見の概要	市としての考え方	修正の有無
16	<p>16)過疎地における交通の問題は、「車社会の田舎において、人口が少なくなり、バスや鉄道の利用者が圧倒的に少なくなり、ほとんど乗客がないバスや電車が走っている状況で、その赤字を誰が負担するか」という問題に尽きる。単に、赤字ということで路線や電車を廃止すると、今度は、町から離れた村や集落への交通がなくなり、さらに過疎化が進む負のスパイラルになってしまっている。例えば、石見交通の本社が益田にあるうちは、石見交通はまだ頑張って路線を維持しようとする意識が出てくるが、益田から撤退したら、ほぼ路線は壊滅状態になる、それがさらに過疎化を生み、限界集落だらけになってくるであろう。この対策としては、①どこの路線地域は、赤字でも自治体が支援して残すのかを政策的に決める。②それ以外の地域は代替えとなるライドシェアや乗り合いタクシーへの転換を進める。③田舎から町の集約するコンパクトシティを目指す具体的な施策を立てていく。計画書においてコンパクトシティの概念はあるようだが、言葉だけのお題目で記載しているだけでなく、本気に危機感をもって検討してもらいたい。残された時間はそんなにはない。</p>	<p>赤字路線の維持と代替交通（ライドシェア等）の区分けを明確にし、コンパクトシティ化を本気で進め、持続可能な交通体系を構築すべき。</p>	<p>持続可能な地域交通網を維持するため、「第6次益田市総合振興計画後期基本計画（案）」に基づき、地域公共交通の再編を進めています。地域交通網の維持については、路線バスの維持を前提としつつ、交通空白地においては、自家用有償旅客運送や乗合タクシー又は地域住民等が実施する無償輸送等を活用するなど、地域の特性に応じた最適な手段を講じてまいります。また、都市計画施策と連動し、主要な拠点に都市機能や居住を誘導するコンパクトで利便性の高い市街地を推進し、効率的な移動環境の実現を目指します。</p>	無
17	<p>17) 環境保全 益田のいいところは、水資源が素晴らしく、水が綺麗で豊富という点や自然豊かという点が、益田が誇れるアピールできる重要な点である。この水資源が、壊されないように、水質モニターをちゃんとしていく必要がある。特に、最近はバイオマスや火力発電用に大規模な森林伐採が平気で数多く行われてきていて、このままだと水質やがけ崩れなどの自然破壊が進む危惧がある。ちゃんと、市としても大切な益田の宝の資源を守るという意識をもって、管理・モニターしていく体制を設置してもらいたい。これらを踏まえ環境モニターを計画に打ち出し、施策を行ってってもらいたい。</p>	<p>豊かな水資源や自然環境を守るため、大規模伐採等の監視体制を強化し、水質保全等の環境モニタリングを行い、乱開発を防ぐべき。</p>	<p>高津川をはじめとする自然環境は本市の重要な資産であり、保全が必要であると認識しています。「第6次益田市総合振興計画後期基本計画（案）」の環境保全施策に基づき、森林法や関係法令に基づく開発行為への指導・監視を行い、適正な土地利用を誘導します。また、河川の水質検査を継続的に実施するとともに、地域住民・団体が行う保全活動を支援するなど、自然環境と調和した持続可能な環境づくりに努めます。</p>	無
18	<p>18)熊被害の対策 今後益田では、地球温暖化による気候変動と、過疎化による人里と熊が接近してきている状況は、ますます進む中、早期に熊被害対策を立てておく必要がある。ハンターの育成や、猟師などの駆除作業の手当の充実や、保険対応など、早期に支援をしていくべき項目と思われる、計画にも含め、施策として実施してもらいたい。</p>	<p>気候変動や過疎化による熊被害の増加に備え、ハンター育成や手当・保険の充実など早期の対策強化を行い、市民の安全を守ってほしい。</p>	<p>有害鳥獣による被害対策は喫緊の課題と認識しています。本市では、出没情報の共有や地域への注意喚起を行うとともに、地域住民や猟友会、関係機関と連携し、地域ぐるみでの被害防止対策を推進してまいります。なお、クマは島根県において保護鳥獣として管理されていることから、島根県の方針を踏まえ、関係機関と連携しながら適切な対応に努め、市民の安全安心な生活環境の確保に努めてまいります。</p>	無

No.	ご意見の内容（原文）	ご意見の概要	市としての考え方	修正の有無
19	19)防災対策 益田は、地震はあまり起きにくい地域である。近々に発生する可能性がある地震対応として考えておくのは南海トラフ地震で、益田の多くは震度5強が想定されるが、益田の一部の埋め立てされた地域では、液状化や共振して震6強になる恐れもある。こうした地区に特化した防災対応策を作っていく必要がある。また、気候変動が進む中ゲリラ豪雨は、いつ起きるかわからないため、益田川、高津川河川周辺での防災対策をしっかりとるべきである。いろいろな防災対策を網羅するのではなく、益田に必要な目的をはっきりさせて防災対応策に重点をおいて計画を作るべきである。	液状化や河川氾濫など地域ごとのリスクに応じた防災対策を重点化し、総花的ではない実効性ある計画を策定・実行してほしい。	地域ごとに災害リスクが異なることを踏まえ、地区ごとの防災訓練や「個別避難計画」の作成支援を通じて、地域特性に応じた避難行動の定着を図ります。「第6次益田市総合振興計画後期基本計画（案）」に基づき、ハード整備とソフト対策を組み合わせ、地域の実情に即した実効性の高い防災・減災対策を推進します。	無
20	20)子育て支援の強化 子供を育てやすい環境整備こそ、自然に恵まれ細かなところまで手が届く教育ができる地方の自治体が最も強化すべき課題で、ここに資源を投資していくことが効果的で、それによって過疎化も緩急できる可能性があり、重点的にかつ手厚い支援を計画に明記し、具体的な施策を望む。 例えば、乳児保育ゼロ円、保育園児半額、幼稚園3割補助、保育児待機ゼロ、小学生以下医療無料などを実施し、それを売りに定住や移住をすすめるにも役立つ。	医療費無料化や保育料軽減など経済的支援を抜本的に強化し、子育てしやすい環境をアピールして定住促進につなげてほしい。	子育て世帯の経済的負担軽減は重要施策と認識しています。子育て支援の具体的な施策については、本計画の上位計画である「第6次益田市総合振興計画後期基本計画（案）」や子ども・子育て支援に関する計画である「益田市こども計画」に基づき、妊娠・出産から子育てまでの一貫した支援を継続して行います。経済的支援に加え、保育の質の向上や子育てに関する相談体制の充実など、子育て環境を総合的に整備し、定住促進を図ります。	無
21	21)高齢者が住みやすい街づくり これまで高齢者は市の負担を増やすので厄介と思っているところがあるが、今後一番のねらい目は高齢者である。資産のある高齢者の移住や、子供が都会で稼いで益田にいる高齢者にお金を流すという仕組みにより、お金が都会から益田に流れ、その介護などの支援で雇用も確保できるようになる。高齢者が住みやすい街というアピールするための施策を考えてもらいたい。	高齢者が住みやすい街づくりをアピールして移住を促進し、介護需要による雇用創出と経済循環を目指す構想を推進してほしい。	「第9期益田市高齢者福祉計画・介護保険事業計画」において「地域に暮らす全ての高齢者が住み慣れた地域で安心して生きがいと役割を持って暮らせるまち」を基本目標とし、高齢者福祉施策を推進していきます。今後も引き続き、健康づくりや生きがいづくり、在宅生活を支える取り組みや住まいの確保など取り組みを図り、高齢者の方が住みやすいまちづくりを目指します。また、少子高齢化、生産年齢人口の減少により介護人材の確保は課題となっています。市では関係機関・団体とともに人材確保に向け検討していきます。	無
22	22)益田は、とにかく医療環境が悪い。一定の医院はあるが、益田市民が信頼する医院が少なく、周辺の浜田や江津の医院に行かざるを得ない状況である。実際、益田に帰って聞いてみたところ、評判のいい医院が少ない状況であった。これでは、益田に残りたいとか、移住したくても、不安で医療環境が理由で外に出てしまう人も多くなっている。医者の確保と良質な医療の提供ができる医療拠点の充実を早期に進める必要がある。	医療環境の悪化や医師不足を解消するため、医師確保対策を強化し、安心して暮らせる医療拠点の充実を図り、地域医療を守ってほしい。	地域医療の維持・確保は重要課題と認識しています。「第6次益田市総合振興計画後期基本計画（案）」に基づき、島根県や大学等と連携し、医師・看護師等の医療従事者の確保に努めます。また、奨学金制度の活用や研修環境の整備を通じて人材育成を図るとともに、公的病院への財政支援の継続と、市立診療所の維持を行い、救急医療や周産期医療など、地域に必要な医療機能が安定的に提供される体制を維持します。	無

No.	ご意見の内容（原文）	ご意見の概要	市としての考え方	修正の有無
23	<p>23) 医療拠点の整理統合と棲み分け</p> <p>40000人程度の小さな町に、医療の2拠点（日赤と医師会病院）はtoo muchである。地方に優秀な医師の人材確保ができないうえ、資金も少なくなっている中、日赤に資源を重点的に集約して、そこでは、最高の医療が確保できるといようにしないと、あぶりは取らずの状況になる。医師・看護師の給与や人材確保に置いても、市が積極的に援助していく必要がある。一方、医師会病院などは、役割分担として高齢者医療やリハビリ、終末医療などに特化した形にするなどして、整理統合に踏み出すべきである。計画に入れるのは難しいかもしれないが、是非具体的に検討してもらいたい。</p>	<p>医療資源の散逸を防ぐため、日赤への集約と医師会病院との役割分担（機能分化）を進め、効率的で持続可能な医療体制を維持すべき。</p>	<p>持続可能な医療体制を構築するため、医療機関の機能分化と連携が必要です。「第6次益田市総合振興計画後期基本計画（案）」や県や関係医療機関の方針等に基づき、益田赤十字病院を急性期・救急医療、益田地域医療センター医師会病院を回復期・慢性期医療の拠点として、役割分担と連携強化を進めています。限られた医療資源を有効活用するため、各病院の特性を活かした医療提供体制の構築を行政として支援してまいります。</p>	無
24	<p>24) 情報化教育の推進</p> <p>IT専門学校の開設が予定され、益田をIT教育の先端の市にするいい機会である。専門学校の先生とタイアップして、中学高校でのAI教育、AI利用の実教育、AIでのプログラム開発教育、ITリテラシー教育、セキュリティ教育などを中学・高校で行うようにしてはどうか。これらは、他の自治体に比べて優位性を出せるものになる。</p> <p>また、優秀な高校生に関しては、ネット塾などの利用経費を支援するなどをして、高校のレベルを上げていく必要がある。</p> <p>これらを考慮した情報教育の強化を重点施策として計画に入れていくべきだと思われる。</p>	<p>IT専門学校や高校と連携し、AIやプログラミング等の情報教育を強化して、IT先端都市を目指すべき人材を育成してほしい。</p>	<p>「第2次益田市教育ビジョン」において、GIGAスクール構想の推進と情報活用能力の育成を掲げています。授業での生成AIの活用に関しては、現在研究中であり、発達の段階に応じて生成AIの基本的な仕組みや留意点の理解を図ることが必要であると考えています。</p> <p>小中学校段階でのプログラミング教育や情報リテラシー教育等については、教育機関とIT企業等との連携も含め取り組んでまいります。また、キャリア教育の一環としてIT関連の職業理解を深めるなど、地域産業のDXを担う人材の育成を図り、先端技術を活用できるまちづくりにつなげます。</p>	無
25	<p>25) 進学環境の強化</p> <p>大学に進むのに有利な進学環境を整えることは、益田をアピールするいい材料である。益高でSSHなどを進めているが、現在では時代遅れで、形骸化しているのではないか。現在の大学進学は、半数が推薦になりつつある中、高校生のインターン制度への支援強化や、ネットを使った教育レベルの向上、特色を持った学校教育などを検討してほしい。</p>	<p>ネット塾の活用支援やインターンシップ強化など、大学進学に有利な環境を整え、高校の魅力を高めることで若者の流出を防ぐべき。</p>	<p>高校の魅力化は、若者の定住促進の観点からも重要です。「第2次益田市教育ビジョン」に基づき、ふるさと教育や地域課題解決型の探究学習を推進しており、大学入試改革にも対応した資質・能力の育成を図っています。これに加え、ICTを活用した学習支援など、学力向上に向けた環境整備を支援し、高校、地域、行政が連携して魅力ある教育環境の構築に努めます。また、確かな学力の育成を中軸として、子どもたちの卒業後の選択肢を充実し、子どもたちの可能性を広げるため、益田市型中高一貫教育を推進してまいります。</p>	無

No.	ご意見の内容（原文）	ご意見の概要	市としての考え方	修正の有無
26	<p>26) 全体教育レベルの底上げ</p> <p>益田市の教育環境は、少人数であることを、逆手にとって、手厚いケアができる環境であるともいえる。また、自然体験が豊富にできるメリットがあるので、小学生に対して事前体験を豊富にする教育をしていくことで、心豊かな子供を育てられる自治体ということをアピール材料にできる。そのためには教育コーディネータの強化や体験の充実を進める。また都会のアウトサイドした子供向けのフリースクールの開設も検討してはどうか。</p> <p>また、退職した教師などを活用した、落ちおこばれさせない教育環境の整備も考えていくべきである。</p> <p>これらの施策も計画に含めて、付帯的に実践してもらいたい。</p>	<p>少人数教育の利点を活かした手厚い指導や体験学習の充実、フリースクールの検討など教育環境の底上げを図り、多様な学びを保障すべき。</p>	<p>少子化に伴う小規模校の特性を活かし、「第2次益田市教育ビジョン」において、個々の習熟度や興味に応じた「個別最適化された学び」を推進します。また、地域とともにある学校づくりを進めるため、コミュニティ・スクールを推進し、地域と一体となって、小規模校だからその特性も含め、特色ある学校づくりを推進します。さらに、不登校児童生徒への支援として、教育支援センターの機能強化に加え、フリースクール等とも連携し、学校外での多様な学びの場や居場所を確保することで、全ての児童生徒の可能性を伸ばす教育環境の整備に努めます。</p>	無
27	<p>27) スポーツ教育の強化</p> <p>現在は、何か秀でた子供が活躍する時代であり、益田でも遅ればせながら、スポーツで秀でた子を支援する特待生制度を強化してはどうか。スポーツは、子供本人だけでなく、地元の人の高揚にもつながり、益田を誇りに思う、あるいはアピールするのにいい要素で、遠征や無料奨学金などの制度も充実させていければと思う。</p>	<p>スポーツ特待生制度や遠征費支援などを充実させ、子供の才能を伸ばすとともに地域活性化につなげ、スポーツで夢を持てる環境を。</p>	<p>生涯スポーツ社会の実現に向け、あらゆる世代が年齢や体力に応じてスポーツに親しむことが出来るよう、機会や環境を整えたいと考えています。</p> <p>また「第6次益田市総合振興計画後期基本計画（案）」に基づき、競技力の向上のために、指導者の確保やスポーツ施設の適切な維持管理を行うことで、スポーツに打ち込める環境を確保します。</p>	無
28	<p>28) 地域おこし協力隊やええとこますだ発信隊はとて面白い活動で、住民の参加、特に若い人の参加による新しい感覚での活動ができるという期待がもてるもので、ええとこますだ発信隊も計画に入れて、これらの活動を推進してもらいたい。</p>	<p>地域おこし協力隊や「ええとこますだ発信隊」などの若者の活動を計画に位置付け、彼らの力を地域活性化に最大限活用してほしい。</p>	<p>本市では平成28年3月に「益田市ひとづくり協働構想」を策定し、「地域の担い手育成」についても、「ひとづくり」の視点を持って取り組んでいます。この度の「益田市過疎地域持続的発展計画（案）」と同時期に策定することとしている「第6次益田市総合振興計画後期基本計画（案）」でも、「関係人口の関わり深化と移住・定住の促進」を基本施策として掲げており、地域おこし協力隊をはじめとした外部人材の参画は、地域の担い手確保策のひとつとして有効と考えていることから、引き続き検討を行ってまいります。</p> <p>「ええとこますだ発信隊は様々な年代で構成され、若者の視点も含めた活動が地域活性化につながるものと考えます。今後も発信隊と連携し、多様な媒体を通じて市内外に向けた情報発信を進めます。</p>	無

No.	ご意見の内容（原文）	ご意見の概要	市としての考え方	修正の有無
29	<p>29) 自体会活動の活性化、市民活動の推進</p> <p>地域ネットとして、本来は自治会が強力な手段であったが、昨今の全国で起こっている自治会の衰退・形骸化が、益田でも起きているように思える。益田こそ、自治会の活動を後押ししていけるのではないかと考えていて、自治会活動においていい企画をだしたところに助成や市と連携した協力を行うなどの、応募型プロジェクトなども考えてみてはと思う。</p> <p>また、益田の積極的な市民活動に対しても、助成や市の職員と連携した形の支援をする施策を行ってほしい。</p>	<p>形骸化する自治会活動を活性化させるため、応募型プロジェクトへの助成や市職員との連携支援を行い、地域の自主的な取組を後押ししてほしい。</p>	<p>本市では、地域住民の相互の連携及び協力のもと、地域の課題の解決及び地域の個性、実情等に応じた地域づくりを行うことを目的として、おおむね公民館の所管する区域を範囲とし、区域を代表する総合的な運営組織である「地域自治組織」の設立を推奨し、令和3年度には市内20地区全てで設立されたところです。</p> <p>市ではこれらの地域自治組織を調整役とした地区別地域づくり体制の構築を進めており、「益田市中山間地域振興基本計画」でも重点戦略のひとつとして掲げているところです。</p> <p>地域自治組織に対しては地域が目指す将来像である「まちづくりプラン」に基づき実施する新規事業等に対し、事業提案・プレゼンテーションを実施していただき、採択された団体には「まちづくり活動特別補助金」を交付するほか、公益財団法人島根県市町村振興協会が所管する「協働のまちづくり事業助成金」の活用などの支援を行い、地域の自主的な活動を後押ししているところであり、引き続き、取組んでいきたいと考えております。</p> <p>また、主に地域で共助の中心を担う地域自治組織の活動を活発化するためには公助を担う行政との連携は不可欠です。ついては、市民と行政の協働体制を構築し、市民と行政が一体となって地域課題の解決を図ることにより、住み続けられる地域づくりを実現するために設置している「協働推進ネットワーク庁内会議」を再構築し運用するなど、市の職員も地域づくりへ積極的に関わっていきたくと考えております。</p>	無
30	<p>30) 雪舟の庭、特に萬福寺は日本庭園の石組み方式のうち須弥山石組の日本で代表的な庭である。また、同時に異なる方式の雪舟の庭を近く比べることができる貴重な文化財でもある。これを、益田出身者にも、誇りに思ってもらえるように、将来に向けて維持していく必要がある。市民活動でも維持を進めているが、行政としてもその支援をしっかりとってもらうように施策や助成してほしい。また、四季によって景色も変わる綺麗な庭を、ええとこますだ発信隊などを活用したり、学生に発信を要請したりして、アピールを進めてほしい。計画にも明示してもらえるといいのではないかな。</p>	<p>雪舟庭園などの貴重な文化財を維持管理し、学生等を活用した情報発信を強化して観光資源として活かし、次世代へ継承してほしい。</p>	<p>雪舟庭園は、本市の重要な歴史文化遺産であり、観光資源でもあります。「第6次益田市総合振興計画後期基本計画（案）」に基づき、引き続き支援を行ってまいります。また、「ええとこますだ発信隊」や学生等と連携した情報発信やガイド育成に取り組み、文化財の保存と活用の両立を図り、次世代への継承と地域活性化につなげてまいります。</p>	無

No.	ご意見の内容（原文）	ご意見の概要	市としての考え方	修正の有無
31	<p>31) グラントワ グラントは、とても素晴らしい文化拠点である。Uターンして、一番素晴らしいと思ったのもグラントワであった。貴重な建築物であり、都会でもなかなか経験できないイベントが盛りだくさん催され、都会の人からみても羨ましいもので、益田の宝の一つである。計画にもグラントワを核としてやっていく記載があるが、益田市も一体となって支援を強化してもらいたい。</p>	<p>地域の宝であるグラントワを核とした文化振興を図るため、県施設であっても市が一体となって支援し、まちづくりに活かしてほしい。</p>	<p>島根県芸術文化センター「グラントワ」は、本市の文化・観光拠点として重要です。「第6次益田市総合振興計画後期基本計画（案）」においても連携を明記しており、県立施設ではありますが、市としても周辺の賑わい創出や、市民参加型事業の共催、児童生徒の鑑賞機会の拡充など、ソフト・ハード両面で連携・支援を行います。グラントワを核として、まちなかへの回遊性を高め、文化芸術によるまちづくりを推進します。</p>	無

No.	ご意見の内容（原文）	ご意見の概要	市としての考え方	修正の有無
32	32) 国宝を 観光の目玉として、地元住民にアピールするにも、国宝があれば全く違う状況になる。是非雪舟の益田兼堯の絵を国宝にしていく運動を計画にして取り組んでもらいたい。	雪舟作品の国宝化運動を計画に盛り込み、観光の目玉としてアピールすることで市民の誇りを醸成し、地域のブランド力を高めるべき。	雪舟ゆかりの地としてのブランド力向上は、観光振興および市民の地域への誇りや愛着意識の醸成に有効と考えます。重要文化財指定されている文化財の国宝指定には、新たな付加価値とそれを裏付ける学術的根拠が必要となりますので、引き続き学術的な調査研究を専門家と連携して取り組みます。並行して、「第6次益田市総合振興計画後期基本計画（案）」に基づき、シンポジウムの開催や関連イベントを通じて、その価値を広く市内外に発信してまいります。	無
33	33) 再生可能エネルギーの導入推進には大いに賛成するが、問題点もあることを認識してもらいたい。太陽光発電は、将来のパネル廃棄の問題がはっきりしていない。またバイオマスや火力発電の燃料木材に関しては、現在、木材を得るため、大規模伐採がいたるところで起きていて、それによる自然破壊や地崩れや水質汚染のリスクが極めて高くなっている。自然環境を誇りに思う益田でこうした事態を見逃していれば、将来きっと大きな禍根を残すことになる。行政もしっかり環境保持のための管理や監視をしてもらいたい。この監視に関して、計画にも記載し、施策としてもちゃんとやってもらいたいと思う。	太陽光パネル廃棄やバイオマス燃料のための森林伐採による環境破壊を懸念。行政による監視体制の強化と適正なルール運用を求める。	再生可能エネルギーの導入にあたっては、地域環境や防災への配慮が不可欠です。「第6次益田市総合振興計画後期基本計画（案）」の環境施策のほか、下位計画となる「益田市地球温暖化対策実行計画」に基づき、自然環境・生活環境と共生する再生可能エネルギーの導入を推進します。森林伐採については、森林法その他の関係法令に基づく届出の審査と確認を徹底します。また、将来的な設備廃棄についても、国の動向を注視しつつ、適正処理がなされるよう事業者への指導・監視に努めます。	無
34	34) 独り暮らしの高齢者支援 今後ますます増える独り暮らしの高齢者支援として、行政サービスや委託でもいいが、スマホを活用した、独り暮らしの高齢者を対象とした健康確認コール（1日1回安否を確認）や、AIを活用した話し相手のサービスなどの施策を考えてもらいたい。都会では、行政がそうしたサービスをやって孤独死対応をしているところもある。	独居高齢者の安否確認や孤独解消のため、スマホやAIを活用した見守り・会話サービスの導入を検討し、安心できる暮らしを支えてほしい。	「第9期益田市高齢者福祉計画・介護保険事業計画」に基づき、高齢者が安心して暮らすための生活支援として、日常生活に不安のある一人暮らしや高齢者世帯の方に、緊急通報装置を貸与し緊急時の連絡体制や日々の生活相談対応を行う安心見守りネットワーク事業や、民間警備会社の実施する緊急時駆けつけサービスを利用する際の装置導入費用の一部助成を行っています。今後も必要な方に事業を利用いただけるよう周知を図ります。	無
35	35) 予算の見直し 提案した項目を具体的に実施していくための予算としては、①高市政権が唱える地方活性化型予算で増える可能性がある応募型助成金狙いや、増える可能性がある地方交付金の増分を充てる、②道路整備のうち、効果あるものはいいが、車がほとんど通らず過疎化した地域にはToo Muchな道路整備は先延ばしにすることも一つの方法として検討する、などが考えられる。道路整備よりコンパクトシティ化の方が、今後助成を取りやすくなるし雇用確保等への効果は大きいと考えられる。これまでの枠組みから、手が付けられるところから順次やってみて改善していく姿勢で臨んでもらいたい。	予算のメリハリを付け、過疎地の過剰な道路整備を見直し、コンパクトシティ化やソフト事業へ投資して持続可能な財政運営を行ってほしい。	施策の実施にあたっては、国の交付金制度等を有効に活用し、財源の確保に努めます。また、「第6次益田市総合振興計画後期基本計画（案）」に基づき、他自治体の先進事例や民間活力を取り入れた事業展開を検討し、迅速かつ効果的な施策の推進を図ることで、持続可能なまちづくりの実現を目指します。	無

No.	ご意見の内容（原文）	ご意見の概要	市としての考え方	修正の有無
36	益田市過疎地域持続的発展計画や益田市総合振興計画などの5か年計画について、これまでの5か年計画終了時点で、実施状況及び成果の評価し、公表されているのでしょうか。あるいは今回の計画が5年後に評価され公表されるのでしょうか？単に計画を立ててそれで終了では、進歩も改善もないと思います。計画で、どこまでできて効果があり、どこが不十分でできていないかを振り返らない計画は、絵にかいた餅で、できたところはしっかりアピールしさらに強化していき、できていないところは見直して実施していくことこそが、計画の最も重要な意味です。過去の計画の成果の評価結果があれば、提示してもらいたい。	計画は策定して終わりではなく、過去の評価と反省が必要。5年後の評価・公表を約束し、進捗状況を市民に分かりやすく示すべき。過去の計画の評価結果があれば提示してほしい。	本計画の評価につきましては、上位計画である「第6次益田市総合振興計画後期基本計画（案）」等の評価とあわせて行うこととしています。	無
37	また本来計画書には計画の目標指標というのを示し、どこまでやりどのような成果が見込まれるかを記載するのが今や当たり前になっていて、計画に目標指標を明確に記載してもらいたいと思う。	計画書には具体的な目標指標を明記し、どのような成果が見込まれるかを示すべき。		無
38	さらに、是非AI（ChatGPT）等活用して計画の下案を作ってみてはどうでしょうか。ChatGPTに益田市の6か年計画書を作ってみてとすれば出てきます。指定をこまめにしたり、各種資料を入力すると仕上がりはもっと完成度が高くなります。目標指標など、最近の計画書の必要な事項が含まれたいい計画が出てきます。その中から、使えそうなものを選んで参考にしながら計画を作れば、いい計画書になると思います。AIに使われる（例えば単にコピペするなど）のではなく、AIを使い尽くして役立てればこれほど有益なものはありません。	計画策定や質の向上に生成AI（ChatGPT等）を積極的に活用し、形骸化しない実効性のある計画にしてほしい。AIを使いこなすことで、より完成度の高い計画が作成できるはず。	No.15と同じ	無
39	日本全国、過疎と言われる地区の悩みに地区の景観維持いわゆる草刈りがあります。マンパワー不足、高齢化でどんどん荒地が増えてきています。人材の確保・育成が急務とあるが、それすらままならない地域はどうすればよいか？全地区に自治組織ができたが、それぞれの地区応援隊員・マネージャーが益田市全体を見た活動と地域をまたいだ組織力を作ることを期待します。縮充を目指すにしても、草や木が生い茂る土地に住もうと思う人はいません。それこそが、人口流出・益田市の人口減少へ繋がると考えます。	草刈り等の景観維持におけるマンパワー不足は深刻であり、荒廃地の増加は人口流出につながる。単独地域での対応が困難な中、地域自治組織の連携による「地域をまたいだ応援体制」や「全体を見た活動」を強化し、実効性のある維持管理を行うべき。	No.29のご意見に対する市の考え方でも述べさせていただいていたところですが、市では自治組織を調整役とした地区別地域づくり体制の構築を進めているところです。地域魅力化応援隊員や地域マネージャーに対しては月1回、研修等の機会を設け、市全体の状況等も共有するなど、単独の地区では解決が困難な課題等の共有も行っているところですが、地域の共助の力に任せるばかりではなく、公助もしっかりと関わりを持っていくことで地域課題の解決につなげてまいりたいと考えております。	無